

奄美の明日を考えるディベート・ディスカッション ーもし、奄美に大学を創ったらー

島に大学ちくいぶさ

久保駿太郎(農学部4年)

パクチャンウ(国際地域創造学部2年)

嘉手納芽衣(人文社会学部2年)

テーマの変更

県外の離島(海外含む)の事例をもとに琉球諸島の離島に大学を設置・誘致するためのモデル案の提示

—実行可能性の評価—

離島における大学設置の可能性について県外や海外の事例研究を通じて整理する。整理された情報や関係者への意向調査等をもとに、奄美大島において住民や高生等を対象としたワークショップを実施し、離島における大学設置の可能性を探る



奄美の明日を考えるディベート・ディスカッション
—もし、奄美に大学を創ったら—

予定していた調査とイベント

- ・インターネットや書籍などによる県外の事例調査(日本の様々な離島、太平洋の島々、地中海の離島)
- ・ワークショップ→ディベート・ディスカッション
- ・模擬的なクラウドファンディング調査
- ・専門家の意見を聴く
- ・アンケート調査
- ・アーカイブの作成

イベントの意図：奄美に大学があったらどうだろう？

奄美の課題

奄美には高等教育機関（大学や短大）がない

多くの若者が島を離れる、専門家が常駐していない



大学設置がこのような課題解決に貢献するかもしれない



中高生や地域住民と一緒に考えたい



今回のイベント（ディベート・ディスカッション）

2022/12：フライヤーの配布(イベントの周知①)

2022/12：事前説明会(イベントの周知②)

2023/01：ラジオ出演(イベントの周知③)

2023/01：イベント開催

2023/01：新聞掲載(情報発信①)

2023/03：リーフレットの配布(情報発信②)

準備：フライヤーを配布(イベントの周知①)

目的：登壇者と一般参加者を募集

対象：4高校・6中学校、地域住民

大島北高校、大島高校、奄美高校、

古仁屋高校

朝日中学校、金久中学校、名瀬中学校、

小宿中学校、崎原中学校、龍南中学校

教育事務所を通して、各学校に紙媒体で郵送
高校へは直接郵送

琉球大学地域共創型学生プロジェクト(ちゅらプロ)

奄美の明日を考えるディベート・ディスカッション
ーもし、奄美に大学を創ったらー

日時：2022年1月8日(日)10-12時(9時30分開場)

場所：奄美市AiAi広場2階

参加費：無料

内容：ディベート大会及びディスカッション

主催：琉球大学地域共創型学生プロジェクト
学生チーム「島に大学ちくいぶさ」

久保 駿太郎(農学部4年)

バクチャンウ(国際地域創造学部2年)

嘉手納 芽衣(人文社会学部2年)

後援：琉球大学地域連携推進機構

問合せ先：e196213@eve.u-ryukyu.ac.jp (久保)

登壇者大募集!

当日の一般参加
も大歓迎です!
(事前申込み不要)

説明会はこちら
12/21(水)20:00~
Zoomにて実施



説明会7-17'はこちら
YouTube
で確認できます



「もし、奄美に大学があったら」そう考えたことはありませんか?
奄美で学ばみなさんと島に大学を創ったらについて考えてみませんか?
12月21日(水)の20時からZoomで説明会をします。興味のある方は
ふるってご参加ください!

奄美の中高生から登壇者を募集します

準備：事前説明会(イベントの周知②)



Zoomで開催

大島高校の生徒6名が参加

アーカイブをYoutubeで配信

準備：ラジオ出演(イベントの周知③)



あまみエフエムデイウェイヴ(地元のラジオ)に出演
地域住民に対してイベントを周知

イベント開催：ディベート・ディスカッション

事前情報を共有

テーマ

大学を創ったら、奄美の将来が良くなるか、変わらないか？

ディベート

肯定派と否定派に分かれて3回実施

ディスカッション

参加者全員から感想や意見を得た



【第3種郵便物認可】

日新新聞

奄美大島に大学をつくる可能性について地域の中高生が討論するディベート・ディスカッション企画「もし、奄美に大学を創ったら」が8日、奄美市名瀬のA・A・Iひろばであった。琉球大学農学部4年の久保駿太郎さん(23)＝大島高校卒＝ら琉大生3人をつくるプロジェクト「島に大学ちくいぶさ」の主催。参加者は大学設置について賛否両方のチームに分かれ、課題や可能性を探った。

奄美に大学を創ったら!?

中高生がディベート実践

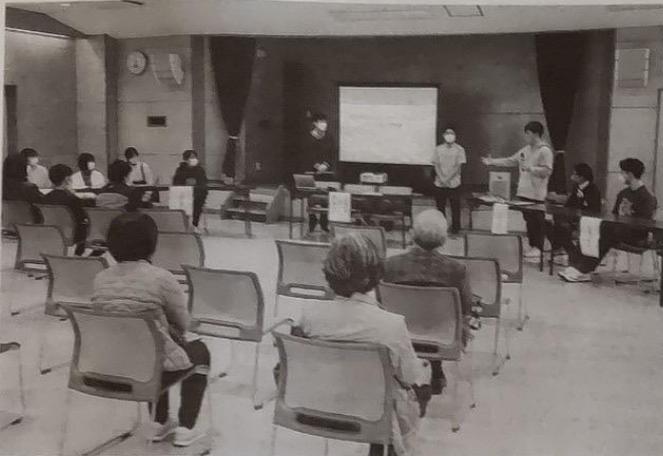
奄美市

琉球大学プロジェクト

「島に大学ちくいぶさ」は、琉球大学地域連携推進機構が支援する学生の地域課題解決プロジェクトの探択チーム。若者の人口流出など奄美の地域課題の解決策を考える上で、大学設置のメリットやデメリットについて多面的に検討するのが目的。大学進学を考える中高生と一緒に考えようという考え、意見に偏りが出ないようディベート形式を採用した。

参加したのは大島高生2人と金久中生3人、小宿中生3人、大川中生1人の計9人。奄美の大学設置に肯定派と否定派の2チームに分かれ、討論した。

奄美大島への大学設置について、賛否両方の立場に立ち討論する中高生たち(8日、奄美市名瀬)



掛からないで済む▽若者の人口が増え地域活性化につながる▽奄美の情報発信の機会が増え、観光客も増える一などの利点を発表。

一方、否定派は▽大学設置には多大な費用がかかる▽大学施設建設は自然破壊につながる▽流入人口が増えることは治安の悪化につながる一などの課題を指摘した。

双方は「大学設置には先行投資も重要」「環境学部を創り、自然保護研究を推進する」(肯定派)、「奄美に設置しなくても奄美の研究活動はできる」「そもそも少子高齢化で子どもがいない」(否定派)などと主張し、それぞれの視点から意見を交わした。

身近な災害対策などを学ぶべく警視庁災害対策課のツイッターが、11日で運用開始から10年を迎える。日常生活でも使える「防災の知恵」はたびたび話題となり、いまや約90万人のフォロワーを持つ人気アカウンツだ。「災害は抑えられないが被害は減らせる」。9月には関東大震災から100年となることもあり、担当者は情報発信を通じた一層の防災意識向上に意気込んでいる。

2013年の運用開始以来、3000件超のツイー

久保さんは「大学設置という知識だけが考える問題と思い、思考を停止してしまつた人は多い。こういう機会を通してみんなに自分事として考えてもらうきっかけにしてほしい」と話している。

奄美で通いたい」と話し、金久中3年の山田みゆびさん(15)は「ディベートは新鮮な体験。将来は学校の先生になりたいので、奄美に教育学部のある大学があったらいいと思う」と感想を述べた。

同式は、21、22日は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し中止。20年は天候不良のため屋内で執り行われ、屋外で

奄美新聞

【第3種郵便物認可】

奄美に「大学」考えよう



「もし、奄美に大学を創ったら」をテーマにディベートする島の中高生たち

地域課題に自立的に(人文学部2年) などの狙いもある。取組む琉球大学地域の共創学生プロジェクトのチーム「島に大学」の一環。同大学生の久保駿太郎さん(農学部)も若者の情報取組を推進する。同大学生の久保駿太郎さん(農学部)も若者の情報取組を推進する。同大学生の久保駿太郎さん(農学部)も若者の情報取組を推進する。

必要やあり方意見

「もし、奄美に大学を創ったら」をテーマにディベート。ディスカッションする学生プロジェクトが8日、奄美市名瀬のA・A・Iひろばであった。琉球大学生らがファシリテーター(進行役)を務め、奄美大島内の中高生らが賛成と反対の立場に分かれて相手チームと議論。島の大学設置を巡ってそれが自分の意見や思いを押し、その必要性やあり方を考えた。

「もし、奄美に大学を創ったら」をテーマにディベートする島の中高生たち

「若者が増えることで



消防訓練の一斉放水に観覧者たちから歓声が上がった(8日、奄美市名瀬・伊津部小学校)

地域の「守り人」決意新たに

奄美市消防 出初め式 3年ぶり、210人参加

2023年奄美市消防出初め式が8日、同市名瀬の伊津部小学校校庭であった。奄美群島日本復帰70周年記念として開かれた今回、市消防団(前山拾郎団長、定数450人、実員388人)の各地区方面隊から団員210人、消防車両4台が参加。行政、関係機関が出席したほか、一般観覧者が見守る中、団員たちは「地域の守り人」としての決意を新たに示した。

同式は、21、22日は新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し中止。20年は天候不良のため屋内で執り行われ、屋外で

治安も悪化しかねない「島へ就業できる流れ」とデメリットが大事。自治体と企業、大学の連携についても「奄美群島などで白熱した議論を交わした。同大・久保さん(23)は「賛成派は、若い人材を確保でき、島の発展につながる」「親の経済的負担が減らせる」「大学ができれば周辺商業施設が活性化できる」などと主張した。これに対し反対派は「予算がない」「今の奄美は、教育より観光に力を入れるべき」

大島高校1年の清美「学生の立場では思いがけない視点ばかりで、奄美の中高生の意見が自分にならなくていいと思ってた。」「オリーブキャンパスなど、大学にも積極的に参加する。」「シシトリーで働く。」「神に力を貸してくれたい。」「はっぴーだ。

実行できなかったが、プロジェクトを進めていく中で分かったこと

- ・インターネットや書籍などによる県外の事例調査(日本の様々な離島、太平洋の島々、地中海の離島)

→身近に参考になる事例(琉球大学)があった。復帰までの2年弱、奄美に分校があった

- ・模擬的なクラウドファンディング調査

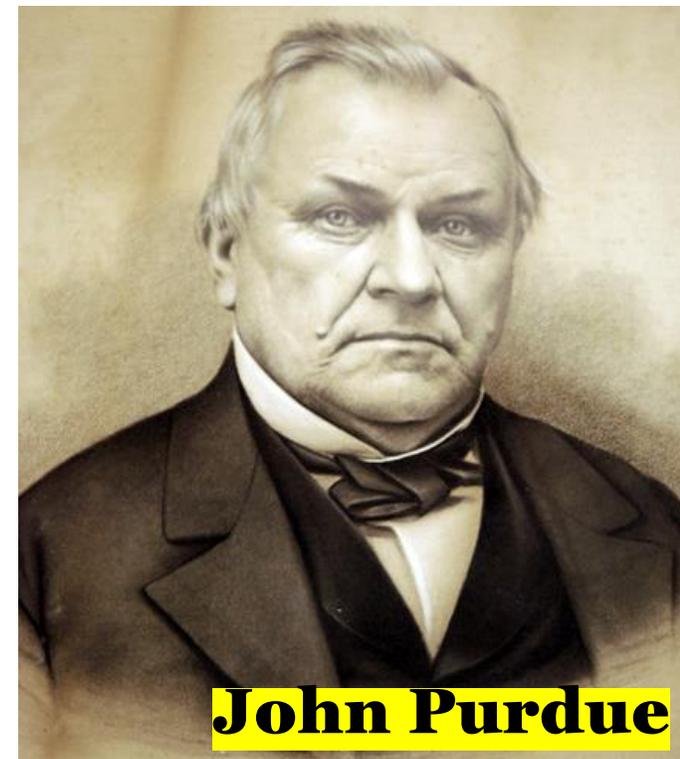
→奄美の財界が協力してくれるかも？



2. Seeds of the Project Planted a week ago.

Until now, the movement to establish a University in Amami Island has been carried out, but it has not been realized. Some adults in Amami and faculty members of University of the Ryukyus also have the opinion that a university is necessary for Amami Island. However, not many people are actually acting.

Coincidentally, when I looked into Purdue University in the U.S., I learned that Purdue University was founded by millionaire John Purdue. So I came up with the idea of establishing a University in Amami Islands.



7. Quality education is required all over the world, but anyone's business

It is necessary to act from within, not from outside.

For example, it is a gender issue. In Japan, there is an example where a woman was involved in the establishment of a university. Umeko Tsuda was involved in the establishment of Tsuda University and contributed to the social advancement of women in Japan.

In this way, it is also important for the parties concerned to act on their own, and we are required to cooperate in such actions.

You may think that we should give priority to eliminating educational disparities in other regions over Amami Islands. But, SDG#4 is not a problem for developing countries and the weak, but a common goal for all mankind.



8. Future Challenges

**We have a dream!!
I want to establish a University
in the Amami Islands.**

Through this presentation, I was able to express my thoughts in words. In the future, I would like to share my ideas with various people, improve them, and bring them closer to realization.



Martin Luther King, Jr.